

学生しか勝たん！！

～学生参加で描き出すお年寄りの輪と安心～

2021 年度 都市計画演習 2 班

青木 日花、石川 夏帆、鎌田 春人、酒井 佑、
高橋 慧、樋口 小波、平山 裕紀人、松浦 海斗

第 1 章 はじめに

背景

私たちの班では、つくば市中心部と周辺部の違いが生み出す問題について調べることにした。つくば市の周辺では、人口減少や高齢化が進んでいること（図 1）から、交通の便の悪さ、教育・公共施設の少なさ、買い物のしづらさなどの問題が発生している。これらの問題を解決するために、市や民間は連携して様々な事業を実施している。その取り組みの一つとして、株式会社カスミはつくば市と連携した移動スーパー事業を実施しており[1]、スーパーの無い地域でも移動の足が制限されている方が買い物できるような取り組みが行われている。そこで、カスミおよびつくば市役所の移動スーパー担当の方にヒアリングを行い、周辺部地域の実態について聞くことにした。さらに地域住民やつくば市社会福祉協議会からのヒアリングを経て、周辺部地域の高齢者の現状についてまとめた。そして、私たちが学生の視点から、これらの事業に参加することで新しい効果が生み出せると考え、地域の高齢者問題に取り組むことにした。

ヒアリング（カスミ）

10 月 25 日にカスミにて移動スーパー担当者の小谷様にお話を伺った。その結果、カスミ側は移動スーパーを福祉事業として認識しており、利益を追求していないことが分かった。また、移動スーパーの停車場に利用者が集まり会話しているというお話も聞き、利用者間の交流という新たな議題が班の中で持ち上がった。

ヒアリング（つくば市役所）

市役所では地域包括支援課の松尾様、金山様にお時間を割いていただいた。お二方のお話から、移動スーパーは現在通っていない地域からも要望が寄せられていること、移動スーパーの停車場では、公民館を開放するなどして利用者同士がお話を楽しんでいることが得られた。そのため、私たちの班は、やはり交流が重要になるだろうと考えた。また、11 月 11 日に、移動スーパーの停車場になっている高須賀地区研修センターで、つくば市社会福祉協議会が試験的に「健康チェックとお話会」を実施することを聞き、私たちも班として参加することになった。

ヒアリング（地域住民）

地域住民からのヒアリング調査では、10 月 28 日に北条・栄、31 日に上郷・真瀬で実施し、日常生活や地域の問題点についての意見を伺った。北条でお話した女性からは「交流会の情報が入ってこないため参加できず、孤独を感じている」、上郷でお話した女性からは「地域の人や若い人との出会いがない」など、地域内や世代間での交流に関する様々な要望があり、地域での交流への需要があるということが分かった。

ヒアリング（つくば市社会福祉協議会）

社会福祉協議会でのヒアリングでは、市役所の松尾様同席のもと、社会福祉協議会の大竹様と君和田様にインタビューをさせていただいた。その中で、地域見守りネットワーク事業というものがあり、地域の方同士が見守るという共助を推進している[2]という情報が得られた。加えて、雑用や、話し相手になどで学生が高齢者と接する意義があるのご意見をいただいた。

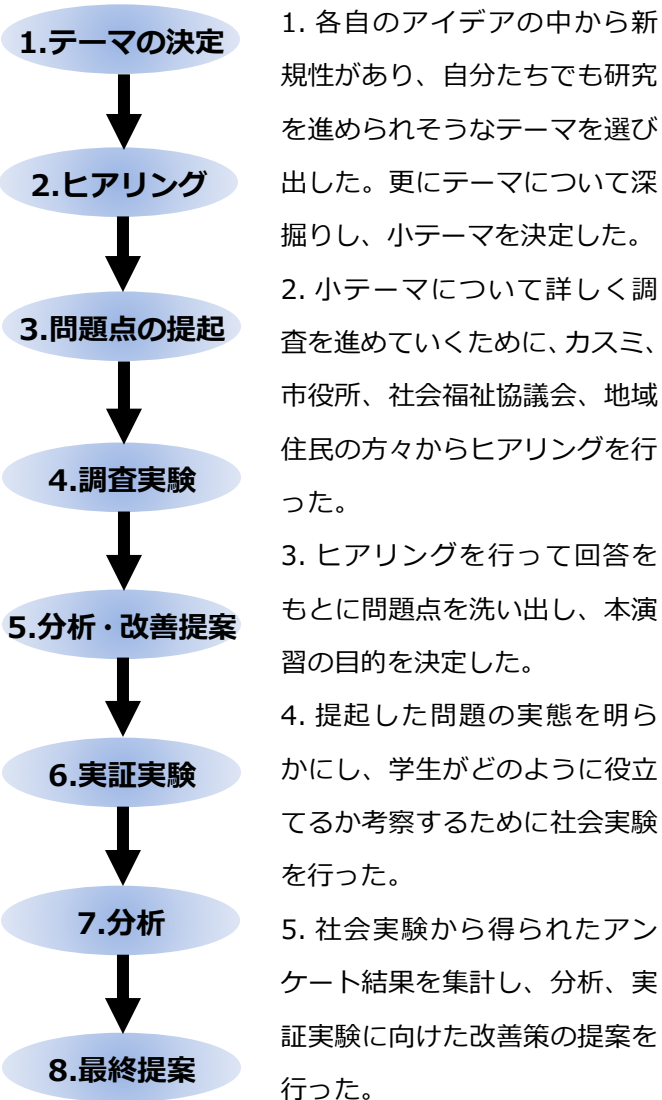
目的

以上のヒアリングより、周辺部地域に住む高齢者の間で地域内や世代間での交流に需要がある状況と、地域見守りネットワーク事業では高齢者の見守りがまだ不十分である状況が想定できる。そのため、私たちの班では、「健康チェックとお話会」を周辺部地域の高齢者の交流・見守りの場として活用して、地域の人たちをより多くこの場に集めるために、地域に住む高齢者の実態を明らかにすることで高齢者の交流・見守り問題への解決策を考察することを本研究の一つ目の目的とした。

また、その問題を解決するにあたって私たち学生がこのイベントに参加し、貢献できることを明らかにすることを本研究の二つ目の目的とした。

演習の流れ

本演習では以下のフローに基づいて実施する。



1 から 5 までのフローを中間発表までに行い、以降については中間発表以降に行う予定である。中間発表後は、調査実験の改善案を踏まえた実証実験を行い、分析を行ったうえで、最終提案を行う。

第 2 章 調査実験

概要

「つくば市の高齢者間の交流と、高齢者に対する見守りが足りない」という問題に対して、市役所が企画した「健康チェックとお話会」に参加した高齢者の実態を調査することにより、高齢者が学生に対してどのようなことを望んでいるのか、また地域で開催されるイベントの効果を明らかにすることを目標とした。

私たちが実験に参加したこのイベントは以下の要領で実施された。

□ 日時：2021 年 11 月 11 日 11 時～12 時

□ 場所：高須賀地区研修センター

カスミの移動スーパーの停留所であり、移動スーパーが来る際の高齢者の団らんが他の停留所よりも多くみられる場所である。イベントが開催される日時も、カスミの移動スーパーが高須賀研修センターに 12 時に停留するため、その時間に合わせて決定された。

□ 主催：つくば市役所地域包括支援課、つくば市社会福祉協議会

□ 目的：地域住民の外出の機会を増やすことにより、交流を促進し、高齢者の見守りをする事。

□ 内容：つくば市保健師による健康相談、血圧測定、握力測定、脳年齢計測、おはなし会

調査地域の現状

つくば市の周辺地域は高齢化率が中心部よりも高い。今回調査する高須賀地域は、2015 年の国勢調査によれば、総数 65 歳以上人口の割合は 30%未満であり、市内中心部よりも高齢化が進行していることが読み取れる。また、近隣にスーパーマーケットがなく、住民の多

くは高須賀地域の西隣に位置する常総市で買い物をを行うか、移動スーパーを中心に利用している[3]。

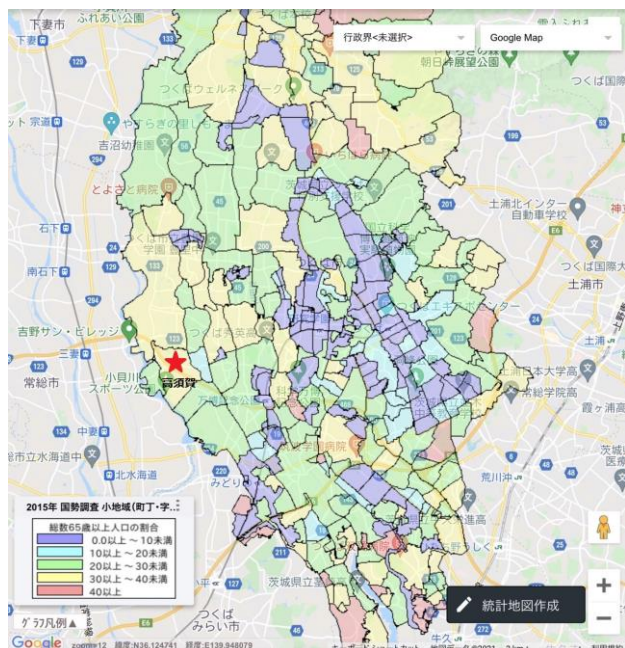


図 1 つくば市内の地域別 65 歳以上人口の割合

調査方法

事前に高須賀地域の住居にチラシを投函し、参加者を募集した上で、当日イベントに参加した方にアンケートを実施した。チラシについては、内容を変えた 3 パターンのチラシのうちいずれかをランダムに投函し、社会実験を試みた。構造化インタビューでのアンケートを行った。アンケートの項目は次の通りである（以下抜粋）。

- ☐ 普段の近所づきあいについて、あてはまるものはどれですか。
- ☐ 地域活動への参加頻度について、あてはまるものはどれですか。
- ☐ 何がきっかけで、このサロンを知りましたか。
- ☐ 今回のように学生が参加するとき、学生に最も求めることはどれですか。

結果

今回、60 代～80 代の男性 3 名、女性 12 名で計 15 名の方にアンケートを取らせていただいた。近所づきあいの調査では、すべての参加者が「互いに相談したり、生活面で協力しあっている人がある」、「日常的に立ち話をする程度の付き合いをしている」と答えた。「挨拶

程度の最低限のつきあいしかしていない」、「付き合いは全くない」と答えた人はいなかった。また、イベント参加者の地域活動の参加状況は、回答者の半分以上が積極的であった。やや積極的と答えた人も含めると、回答者のほとんどが普段から地域活動に積極的に参加していることが分かった。さらに、イベントを知ったきっかけについては、人から聞いたという人が 9 人と最も多く、次にチラシが 6 人、回覧板が 4 人という結果になった。最後に、参加者が学生に求めるものについての回答より、高齢者から「おしゃべり」が最も多く求められていることが分かった。次に「ない」が多く、「手伝い」や「知識共有」はそれほど求めていないことが分かった。チラシの社会実験については、ポスティング以前にイベントの情報がほとんどの方に周知されていたため、効果を測ることができないと判断し、反省を次回に活かすことにした。

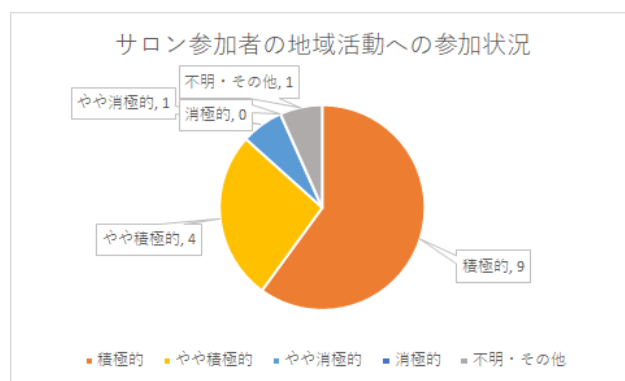


図 2 サロン参加者の地域活動への参加状況

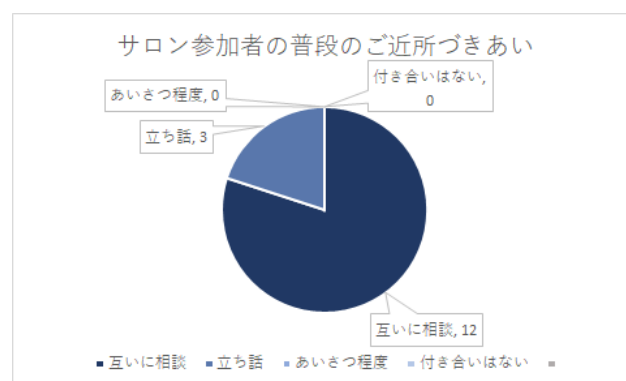


図 3 サロン参加者の普段のご近所づきあい

第3章 終わりに

今後の展望

普段から地域活動に参加しない方に対して学生ができることは少ないため、地域活動に参加した方に対して、学生の介入によってサロンの参加率を上げることが出来る可能性に絞って考える。また同時に、どのような条件で継続的な学生参加が得られるかということも必要だ。ここで、サロンに関わる主体を(1)今回は参加しなかったが、次回参加する可能性のある方、(2)今回は参加しなかったが、今回参加された方、(3)以降も参加しない高齢者、(4)大学生の4つに分類し、(1)(2)(4)を対象にした調査を行う。その内容は次のとおりである。

- ☐ (1)に対して、次回のサロンで回覧板を媒体とした比較実験を実施する
- ☐ (2)に対して、次回のサロンで話す主体を変え、満足度を比較する
- ☐ (4)に対して、Google Form で高齢者サロンに行きたいと思う宣伝方法を尋ねる

以上の見通しにより「学生が参加することで、高齢者の交流と見守りを促進する」ことを最終的な目的として、学生ができることを立証していくつもりである。

出典

- [1] 「つくば市内での「移動スーパー」エリア拡大！～10月12日（月）出発式開催～」
<https://www.kasumi.co.jp/news/news986.pdf>
2021年11月13日閲覧
- [2] 「地域見守りネットワーク事業」
<http://www.tsukuba-swc.or.jp/page/page000025.html>
2021年11月14日閲覧
- [3] 高須賀地域住民からのお話より

サロンを知ったきっかけ（複数回答可）

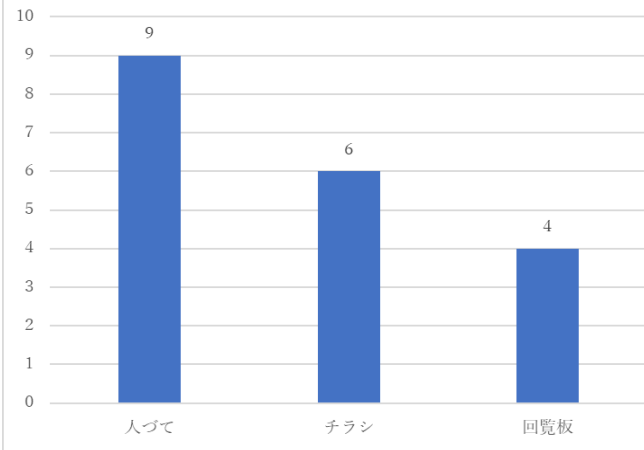


図4 サロンを知ったきっかけ

学生に求めること

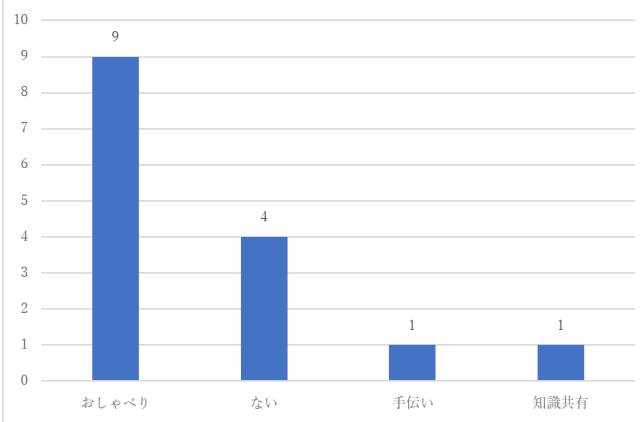


図5 サロン参加者が学生に求めること

考察

- ☐ 情報伝達の手段として、チラシよりも人づての方が多かったことから、イベントの開催情報などを周知させる場合には、紙媒体によってよりも、人が直接情報を伝える方がよい可能性がある。
- ☐ 学生に最も求めることは何かという質問の結果から、今回サロンに参加された方は、学生とお話することを望んでいた。
- ☐ このイベントの参加者は、普段から地域活動への参加やご近所づきあいを活発的に行っている人が多いから、普段から地域活動にあまり参加せず、ご近所づきあいしていない人は、このイベントに参加できていない可能性が考えられる。